

はじめに

高校ご入学おめでとうございます。

新しいステージでの国語学習、そのスムーズなスタートに向け、「備えあれば患いなし」の状況をしっかり作っておきましょう。

本書は、中学国語でみなさんが習得し終えているべき内容の中でも、特に重要だと思われる内容に焦点を絞って編集されています。

英数同様、国語も積み重ねが非常に大切な科目です。今まで学習してきたさまざまなことを、「問題を解く」という作業を通してもう一度頭の中で整理してみましょう。そして今後、より複雑で高度な内容の文章を読みこなせるようになるための国語力がどの程度身についているか、本書を上手に活用して、短期間で効率良く自分の国語力を診断してみてください。その過程でもし弱点が発見されたなら、その部分の復習をしっかりとやるようにしてください。そうすることで、自信をもって次のステップへの第一歩が踏み出せるでしょう。

高校での国語学習スタートへの橋渡しとして、本書がみなさん一人ひとりの役に立つことを願っています。

❖ 考え方

やや難しい設問には解答を導き出すための考え方を示しています。設問を読んでも解答が見えてこないときには、**考え方**を読んでもう一度取り組んでみましょう。

❖ チャレンジ

高校一年生レベルのチャレンジ問題です。設問をよく読んで挑戦してみましょう。

目次

1	漢字・語句の知識	2
2	文法 —— ことばのきまり ——	6
3	論説文を読む① 『知的生活習慣』 外山 滋比古	8
4	論説文を読む② 『自然をつかむ7話』 木村 龍治	10
5	随筆文を読む 『難波ともあれ ことのよし草』 富岡 多恵子	12
6	小説文を読む 『論語物語』 下村 湖人	14
7	詩の鑑賞 『円覚寺』 吉野 弘	16
8	短歌・俳句の鑑賞	18
9	古文の基礎	20
10	古文を読む①説話 『古今著聞集』	22
11	古文を読む②随筆 『枕草子』	24
12	漢文の基礎	26
13	漢詩の鑑賞 『黄鶴楼送三孟浩然之广陵』 李白	28
14	文学史	29

1

漢字・語句の知識

① 部首

次の漢字の部首名をひらがなで答え、その部首の意味説明として適切なものを後のア～キから選び、記号で答えなさい。

- (1) 雌 (2) 帆 (3) 起 (4) 意 (5) 登

ア 人の足の形
イ かこむこと
ウ 布・布で作ったもの
エ 心の動き
オ そむくこと・足の動作
カ 鳥に関係があること
キ 走ること・とびあがること

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	部首名	意味

② 音訓

① 次の語の読みについて、音読みの部分はカタカナで、訓読みの部分はひらがなで書きなさい。

- (1) 見本 (2) 雪国 (3) 出席 (4) 額縁
(5) 機械 (6) 客間 (7) 弱音 (8) 肉屋
(9) 台所 (10) 夕食

(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
(10)	(8)	(6)	(4)	(2)

② 右の(1)～(10)の中で、湯桶読みのもをすべて選び、記号で答えなさい。

③ 右の(1)～(10)の中で、重箱読みのもをすべて選び、記号で答えなさい。

③ 同音異義語・同訓異字

次の――線の字を漢字で書きなさい。

- (1) ア カンシンに堪えない。
イ カンシンを買う。
- (2) ア イギある人生を送る。
イ イギの申し立てをする。
- (3) ア 国語ジテン。
イ 百科ジテン。
- (4) ア コウキ心がある。
イ コウキがやってきた。
- (5) ア セイサンのある計画だ。
イ 借金をセイサンする。
- (6) ア 仏前にそなえる花。
イ 地震にそなえる。
- (7) ア 山をのぞむ。
イ 海にのぞんだ部屋。
- (8) ア 法をおかす。
イ 危険をおかす。
- (9) ア 締め切りをのばす。
イ 背筋をのばす。

(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	
										ア
										イ

(10)
ア 解決をハかる。
イ 時間をハかる。

4 対義語・類義語

① □の中に漢字一字を入れて、次の熟語の対義語を完成させなさい。

(9) 完全 □ 欠	(7) 出世 立 □	(5) 活発 □ 活	(3) 節約 □ 約	(1) 詳細 □ 細
(10) 親切 □ 意	(8) 音信 消 □	(6) 情勢 □ 勢	(4) 故人 □ 者	(2) 達成 □ 就
(9) 地味 ↓ □ 手	(7) 苦手 ↓ □ 手	(5) 個人 ↓ □ 会	(3) 実物 ↓ □ 型	(1) 進歩 ↓ □ 歩
(10) 点火 ↓ □ 火	(8) 節約 ↓ □ 費	(6) 豊富 ↓ 欠 □	(4) 秘密 ↓ □ 開	(2) 応答 ↓ 質 □

② □の中に漢字一字を入れて、次の熟語の類義語を完成させなさい。

5 熟語の組み立て・三字熟語・四字熟語

① 次の熟語と同じ組み立ての熟語を、後のア～オから選び、記号で答えなさい。

- (1) 運送 (2) 点滅 (3) 徐行
(4) 雷鳴 (5) 返金

ア 主人 イ 迷惑 ウ 日没
エ 損益 オ 仰天

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

② □の中に漢字一字を入れて、三字の熟語を作りなさい。ただし、(1)(6)は「不・無・非・未」のいずれかを入れなさい。

(9) 百 □ 力	(7) 危 □ 性	(5) 松竹 □	(3) 紀 □ 文	(1) □ 売品
(10) □ 食住	(8) 美 □ 館	(6) □ 案内	(4) □ 水池	(2) 雪 □ 花

③ □の中に漢字を一字ずつ入れて、()

内の意味を表す四字熟語を完成させなさい。また、完成した四字熟語の読みもひらがなで書きなさい。

(1) 森 □ □ 象 (宇宙に存在するすべての

もの。)

(2) 傍 □ □ 人 (人前をはばかりず、勝手

気ままにふるまうこと。)

(3) □ □ 千金 (一度の仕事で莫大な利益を

得ること。)

(4) 朝 □ □ 四 (目の違いにこだわり、

同じ結果となることに気づかないこと。)

(5) □ □ 顔一 □ □ (顔をほころばせてにつこ

り笑うこと。)

(6) □ □ 科玉 □ □ (最も大切に守らねば

ならないきまり。)

(7) □ □ 見遊 □ □ (見物して遊びまわること。)

(8) □ □ 理 □ □ 論 (現実からかけ離れていて、

役に立たない理論や議論。)

(9) □ □ 散 □ □ 消 (物事が、一度にあとかた

もなく消えてなくなること。)

(10) 喜 □ □ 面 (喜びの表情が顔いっぱい

に広がること。)

《読み》

(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

⑥ 慣用句

① □の中に漢字一字を入れて慣用句を完成させ、その意味を後のア～オから選び、記号で答えなさい。

(1) □ □ をくくる

(2) 的を □ □ する

(3) □ □ を失う

(4) □ □ を割る

(5) 万事 □ □ す

ア 驚きや恐れで顔が青ざめる
イ もう何も施すべき方法がない
ウ 軽くみる
エ 心中を打ち明ける
オ 物事の肝心な点を確実にとらえる

《意味》

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

- ② □の中にあてはまる動物名(1)・
(3)・植物名(4)(5)・数字(6)(7)・体
の一部(8)・(10)を漢字一字で入れて、
内の意味を表す慣用句を完成させなさい。
- (1) □ が合う(気が合い一緒に行動し易い。)
- (2) □ 知恵(一見利口そうで実は浅はか。)
- (3) □ の子(大切にして手離さないもの。)
- (4) □ を割ったよう(さっぱりした性質のたとえ。)
- (5) □ を洗う(多人数の雑踏するさま。)
- (6) □ の句がつけない(あきれて次の言葉が出てこない。)
- (7) □ 目置く(相手の力量に敬意を表し、一歩譲って接する。)
- (8) □ 目から □ に抜ける(きわめて賢く判断や理解がはやい。)

- (9) □ をぬぐう(悪いことをしても、そしらぬ顔をする。)
- (10) □ に衣着せぬ(遠慮せず、思ったままを率直に言う。)
- 7 ことわざ
次のことわざと同じ意味で用いられることわざを、後のア～コから選び、記号で答えなさい。
- (1) うりのつるになすびはならぬ
- (2) ひょうたんから駒
- (3) のれんに腕押し
- (4) 医者の不養生
- (5) 弱り目にたたり目
- (6) あぶはち取らず
- (7) すずめ百まで踊り忘れず
- (8) 馬の耳に念仏
- (9) 畑に蛤はまぐり
- (10) 果報は寝て待て

ア 待てば海路の日和あり
イ 坊主の不信心
ウ うそから出たまこと
エ かえるの子はかえる
オ 三つ子の魂百まで
カ 二兎を追う者は一兎をも得ず
キ ぬかに釘
ク 犬に論語
ケ 木によりて魚を求む
コ 泣きつ面にはち

(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)

(2)〈形容詞〉 次の各単語の中から形容詞を見つけて、記号で答えなさい。

ア	若い	イ	ためらい
ウ	楽しみ	エ	恐ろしい
オ	恥ずかしい	カ	きれいだ
キ	寒さ	ク	悲しみ
ケ	かたらい		

(3) 〈形容動詞〉 次の各単語の中から形容動詞を見つけて、記号で答えなさい。

ア	無邪気だ	イ	学校だ
ウ	平和だ	エ	山だ
オ	大丈夫です	カ	適切だ
キ	彼です	ク	結構だ
ケ	飛んだ		

(4)〈名詞・代名詞〉 次の各文中の傍線部の名詞について、その種類を後のア〜カから選び、記号で答えなさい。

①途中であきらめるのなら、はじめから挑戦しないのと同じことだ。

②そこはだれも知らない場所だ。

③ 一度^aだけ^bでもヒマ^cラヤの山に登りたい。

ア 普通名詞
ウ 数詞
エ 人称代名詞
オ 指示代名詞
カ 固有名词
キ 形式名詞
ク 工
ケ 力

③	②	①
a	a	a
b	b	b
c	c	c

(5)〈副詞〉 次の各文中から副詞を見つけて、その右側に傍線(――)を引きなさい。

① ふと気づくと、彼がそこに立っていた。

② そんなことは決してしないと思う。

③とても上手に仕上げる事ができた。

(6)〈連体詞〉 次の各文中から連体詞を見つけて、その右側に傍線(――)を引きなさい。

① それについて、その時は気にしていなかった。

② 平和な時代が、いろいろな音楽を生む。

③ 明くる日、わが家に一人の客が来た。

4 付属語の問題

(1) 次の文章から助動詞と助詞を見つけ、助動詞の右側には傍線(――)を、助詞の右側には波線(~~~~)を引きなさい。

あたりは夕闇に包まれ、静かな空気が漂っていた。東の空には星がまたたきをはじめ、昼間の喧騒がうそのように感じられた。

(2) 次の文章中の傍線部「ない」のうち、助動詞であるものをすべて選び、記号で答えなさい。

時間がないから勉強ができないというの
は、正しい言い方ではない。ほとんどの場
合は、勉強する時間を作らないだけである。
なさない言い訳だと言えるかもしれない。

6

小説文を読む

『論語物語』 下村湖人

☆心理を的確に読み取りましょう。

次の文章は、孔子の門人の子路が、同じく門人の子羔を費という領土の代官に任命し、それを孔子に報告した場面です。子羔は年若く、学問的にもまだ未熟な上、当時の費はすぐれた人物でも治め難いと言われていた土地でした。以上のことをふまえて文章全体を読み、あとの問いに答えなさい。

子路は、^aイツキにしゃべりつづけた。そして自分ながら、とっさに^{*}孔子自身の持論を応用して、それを自分の言葉で巧みに表現することのできたのを、得意に感じながら、孔子の返事をまつた。

孔子は、しかし、そっぽを向いたきり、ものをいわなかった。彼はじっと目を閉じて、何か思案するようなふうであつた。

子路の目には、妙にそれがいたいたしかつた。自分の言葉が、図星にあたりすぎて、さすがに先生も困っておられるな、と思った。彼は何とかその場を^b繕わなければならないと思つたが、残念ながら、そんな場合の技巧は、彼の得意とするところではなかつた。で、彼も丸太のようにおし黙っていた。

そのうちに、彼はしだいに孔子の沈黙が恐ろしくなり出した。孔子の沈黙は、いつも只事^cではなかつたからである。彼は孔子の横顔をぬすみ見ながら、そろそろ自分を反省し始めた。

(自分は、今先生にいったとおりのことを、ほんとうに信じているのか) いや! と、彼は即座に自分に答えざるを得なかつた。

(子羔のためにならないのは、先生の言葉をまつまでもなく、知れきつたことだ。すると自分は、^②いったい誰のために彼を採用したのだ? むろん費の人民のためではない。子羔自身のためでもなく、費のためでもないとする——)

彼はここまで考えてきて、もう孔子の前にいたたまらなくなつた。何とか^cキカイをとらえて逃げ出す工夫はないものか、と考へた。向こう見ずの彼だけに、いったん反省し出すと、矢も楯も^dたまらないほど恥ずかしくなるのであつた。

その時、孔子の顔が動いた。子路にはそれが電光のように感じられた。孔子の声は、しかし、ゆつたりと流れ出た。

「私は、議論がりつぱだというだけで、その人を信ずるわけにはいかない。なぜなら、真に道を行わんとする人であるか、表面だけを飾っている人であるかは、それだけでは判断がつかないからじゃ。われわれは、正面から反対のできない道理で飾られた悪行、というもののあることを知らなければならない。己の善を行わんがために、人を^e賊うのがその一つじゃ。そんな行いをする人は、^③いつもりつぱな道理を持ち合わせている。そして私は、——」

ここで孔子は、いちだんと声を励ました。

「その道理を巧みに述べたてる舌を持つている人を、心から^f悪むのじゃ!」

^④子路は、喪心したようになって、孔子の門を辞した。

〔語注〕 *孔子自身の持論＝「真の学問は、本を読むだけでなく、体験に即したものでなければならぬ」という考え方を指す。

問一 傍線部 a ～ c のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらが

なで書きなさい。

a
b
c

波線部「矢も楯もたまらない」の意味を書きなさい。



チャレンジ!

問三 傍線部①「自分の言葉で巧みに表現する」とありますが、このと

き子路は何を言ったと考えられますか。三十字以内で書きなさい。

[illegible]

 考え方

リード文と〔語注〕の内容もヒントにして考えましょう。

問四 傍線部②「自分は、いったい誰のために彼を採用したのだ？」と

いう問いに対する子路自身の答えを、一単語で書きなさい。

問五 傍線部③「りっぱな」にこめられている思いとして最も適切なものを

のを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 共感
イ 驚嘆
ウ 皮肉

工
追従ついでしょう
才
賞賛

7

チャレンジ!

問六 傍線部④「子路は、喪心したようになって」とありますが、そう
なったのはなぜですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答
えなさい。

えなさい。

ア 自分の行為が、最後まで孔子には正当に評価されなかったから。

イ 善行だと思ったことが、いつのまにか悪行にすりかえられたから。

喜ばせようとした孔子に、逆にぶっきらぼうな言葉で非難された

から。

エ 自分の道理の表面性を、孔子に見抜かれたから。

オ 孔子の道理の前では、自分の行為の価値が下がったから。

7

9

古文の基礎

☆ 基本的事項の確認をしましょう。

① 仮名遣い

次の古文中の傍線部(1)～(6)の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改めなさい。

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一すぢありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

〔竹取物語〕

(4)	(1)
(5)	(2)
(6)	(3)

② 省略の存在

次の古文を現代語に改めるときに、() の中に補うべき助詞や主語を書きなさい。

(1) 龍の頸に五色に光る玉あり。〔竹取物語〕

《現代語訳》……龍の首に五色に光る玉 () ある。

(2) 懈怠の心、みづから知らずといへども、師これを知る。〔徒然草〕

《現代語訳》……なまけゆるむ気持ち () 、本人 () 気づ

かなくとも、先生 () それを見抜いている。

③ 重要古語

チャレンジ

(3) 今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。〔竹取物語〕

《現代語訳》……今となつては昔のことだが、竹取の翁という者 () いた。 () 、野山に分け入つて竹を取つては、いろいろなことに使っていた。

次の古文中の傍線部の意味を書きなさい。

(1) あやしき家の見どころもなき梅の木 …… 〔枕草子〕

(2) 後に立ちて追ひゆけど、え追ひつかで、 …… 〔伊勢物語〕

(3) もとは、やむことなきすぢなれど、世に経るたづきすくなく、 …… 〔源氏物語〕

(4) 日しきりとにかくしつづ、ののしるうちに夜ふけぬ。 〔土佐日記〕

(5) かつあらはるるをもかへり見ず、口にまかせて言ひ散らすは、やがて浮きたることと聞ゆ。 〔徒然草〕

(5)	(3)	(1)
	(4)	(2)

【考え方】

文語には、形が現代語と同じでも意味の違う語と、現代語では用いられなくなった語とがあります。意味がわからないものについては、辞書を引いてみましょう。

4 係り結びの法則

次の古文中で「係り結びの法則」が成り立っている箇所をさがし、例にならって印をつけなさい。さらに文末の語の活用形名も答えなさい。

(例) 我をつらしと思ふことやありし(連体形)

(1) 名をば道綱となむ言ひける。()

(2) 時雨しぐれの夜こそ片時忘れず、恋しく侍れ。()

チャレンジ

5 接続助詞「ば」の訳し方

次の古文中の傍線部を現代語に直しなさい。

(1) 風吹かば、行かじ。

《現代語訳》……風が() 行かないだろう。

(2) 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。

《現代語訳》……都では見かけない鳥()、だれ

もみんな(その鳥の名を)知らない。

(3) それを見れば、三寸ばかりなる人いとうつくしうてゐたり。

《現代語訳》……それを()、三寸ほどの人が、

たいへんかわいらしい様子ですわっていた。

(4) 命長ければ、恥多し。

《現代語訳》……命が()、恥が多い。

6 月の異名・方位・時刻(古典常識)

(1) 次の太陰暦の各月の、呼び方の読みをひらがなで書きなさい。

(1) 睦月 (2) 如月 (3) 卯月 (4) 皐月 (5) 師走

(2) 次の方位を十二支で表した場合の呼び名を、漢字で書きなさい。

(1) 東 (2) 南

(3) 乾(いぬゐ)とはどの方位を表すか、漢字で書きなさい。

(4) 現在の午後八時ごろを表す十二支の中の漢字を書き、その読みも答えなさい。

④	②	①
漢字	(1)	(4)
読み	(2)	(5)
	③	(3)

1 漢字・語句の知識

解答

- ① ふるとりカ (2) はばへん(きんべん) ウ
 (3) そうによう キ (4) したごころ エ
- ② (1) みホン (2) ゆきぐに
 (3) シュツセキ (4) ガクぶち
 (5) キカイ (6) キヤクマ
 (7) よわね (8) ニクヤ
 (9) ダイどころ (10) ゆうシヨク
- ③ (1)・(10)
 (4)・(6)・(8)・(9)
- ④ (1) ア寒心 イ歓心 (2) ア意義 イ異議
 (3) ア辞典 イ事典 (4) ア好奇 イ好機
 (5) ア成算 イ清算 (6) ア供 イ備
 (7) ア望 イ臨 (8) ア犯 イ冒
 (9) ア延 イ伸 (10) ア図 イ計
- ⑤ (1) 退 (2) 疑 (3) 模 (4) 公 (5) 社
 (6) 乏 (7) 得 (8) 浪 (9) 派 (10) 消
 (1) 委 (2) 成 (3) 儉 (4) 死 (5) 快
 (6) 形 (7) 身 (8) 息 (9) 無 (10) 厚
 (1) イ (2) エ (3) ア (4) ウ (5) オ
 (1) 非 (2) 月 (3) 行 (4) 貯 (5) 梅
 (6) 不 (7) 陰 (8) 術 (9) 人 (10) 衣
 (1) 羅・万 しんらばんしょう
 (2) 若・無 ほうじやくぶじん

- ③ 一・獲 いっかくせんきん
 (4) 三・暮 ちようさんぼし
 (5) 破・笑 はがんにっしょう
 (6) 金・条 きんかぎよくじよう
 (7) 物・山 ものみゆさん
 (8) 空・空 くうりくうろん
 (9) 雲・霧 うんさんむしょう
 (10) 色・満 きしよくまんめん
- ④ (1) 高ウ (2) 射オ (3) 色ア
 (4) 腹エ (5) 休イ
- ⑤ (1) 馬 (2) 猿 (3) 虎 (4) 竹 (5) 芋
 (6) 二 (7) 一 (8) 鼻 (9) 口 (10) 齒
 (1) エ (2) ウ (3) キ (4) イ (5) コ
 (6) カ (7) オ (8) ク (9) ケ (10) ア
- ⑥ 「部首」は漢字を分類するときの目印となるので、しっかりと理解したい。
 (1) の「本(ホン)」、(6)の「客(キヤク)」は訓読みと間違えやすいので、注意しよう。
 (2)③ 「湯桶読み」とは「音・訓読み」のこと、「重箱読み」とは「音・訓読み」のことである。
 (1) ア「恐れおののく」こと。イ「うれし」と感じる心「のこと。「歓心を買う」は、(人の気に入られるように努める)という意味の慣用句。
 (7) ア「遠くにあるものを眺める」こと。イ「面している」こと。
 (7) 「得手」とは「得意とするところ」とい

- う意味。
 (7) 「立身」とは「世に用いられて栄達すること」。
- ⑤ (1) 上と下が似た意味の漢字を重ねたもの。
 (2) 上と下が対になる漢字を重ねたもの。
 (3) 上が下を修飾する関係のもの。
 (4) 上下が主述の関係のもの。
 (5) 下が上の目的語になっているもの。
 (2) 一字の漢字＋二字の熟語の組み合わせからできている語↓(1)(6)、二字の熟語＋一字の漢字の組み合わせからできている語↓(3)(4)(7)(8)
 (9)、三字の漢字の対等な組み合わせからできている語↓(2)(5)(10)。
- ⑦ 慣用句とは、二つ以上の言葉が結びついて、それぞれもとの意味とは異なる特別な意味を表すようになった言葉のことである。体の一部を表す言葉を使ったもの、人の気持ちや様子をたとえる言葉を使ったもの、身近な動物や植物を使ったもの等いろいろな種類がある。
 (1) 「何事も子は親に似る・子は親の進んだ道を歩むもの・凡人の子はやはり凡人である」等の意。
 (2) 「意外なところから意外なものが現れること」のたとえ・冗談で言っていたことが思いがけず本当になること」などに使う。
 (3) 「意見や忠告を与えても、何の手応えも効き目もないこと」。
 (4) 「人には立派なことを言いながら、自分で

はそれを実行しないこと」。

(5) 「不運の上に不運が重なること」。

(6) 「あれもこれもと欲張ると、どれも手に入らない・欲を深くして失敗する」ことに使う。

(7) 「幼い頃からの習慣は、年老いても変わらない」の意。

(8) 「いくら説き聞かせても、何のありがたみも感じないこと」。

(9) 「求めようとしても手に入り難いこと・見当違いなこと」。

(10) 「幸運は、あせらないで静かに時機がくるのを待つのがよい」の意。

2

文法 ———— ことばのきまり ————

1 解答

(1) 広い／校庭では／小学生が／遊んで／いた。

(2) その／美しい／土地を／守るのが／彼らの／大切な／仕事だった。

(3) そのような／事件が／なぜ／起こったのだろうか。

(4) そんな／ところで／勉強に／集中するのは／無理と／いう／ものだ。

(5) 夕方の／公園は／ひっそりと／して／とても／静かだった。

(6) その／日の／夜は／まるで／真冬のように／寒かった。

(7) 父が／りんごを／むいて／くれた。

(8) 言葉が／ないと／どんなに／不自由かという／ことは、／日本語が／通じない／場所を／旅して／みると／わかる。

2

(1) ① ア ② エ ③ イ

(2) ① ア ② イ

(3) ① オ ② カ ③ エ ④ ウ ⑤ エ ⑥ イ

(4) ① カ ② イ ③ ア

(5) ① エ ② オ ③ イ

3

(1) ラ行五段活用・連用形

(2) マ行上一段活用・終止形

(3) サ行変格活用・連用形

1 解説

① 一文節中に自立語は一つ。(1)「遊んで／いた」

(3)「そのような」(↑「ような」は助動詞なので付属語)、「起こったのだろうか」(↑「だろ」「う」

「か」は、それぞれ、助動詞・助動詞・助詞なので、すべて付属語)、「(4)「いう／ものだ」(↑「いう」

は動詞、「もの」は名詞で、どちらも自立語)、「(8)「言葉が／ないと」の「ない」は形容詞なので自立語

だが、「通じない」の「ない」は助動詞なので付属語、それぞれ以上の点を間違いないで注意。

4

(2) ア・エ・オ

(3) ア・ウ・オ・カ・ク

(4) ① ア ② ア ③ エ

② ア ③ カ ④ オ ⑤ ア

③ ア ④ ウ ⑤ イ ⑥ ア

(5) ① ふと ② 決して ③ とても

(6) ① その ② いろんな ③ 明るく・わが

あたりは夕闇に包まれ、静かな空気が漂っていた。東の空には星がまたたきをはじめ、

昼間の喧騒がうそのように感じられた。

(2) ②・④・⑥

【2】「連体修飾語」とは、体言（名詞）文節を修飾する文節のこと、「連用修飾語」とは、用言（動詞・形容詞・形容動詞）文節を修飾する文節のことである。

（3）①話題転換の働きをしている文節。②呼びかけの働きをしている文節。（4）倒置の文。（5）②に注意。主語が省略されている文。

【3】（2）イ・ウ・キ・ク・ケはすべて名詞。カは形容動詞である。

（3）イ・エ・キは、名詞＋助動詞。オは、「大丈夫だ」という形容動詞の丁寧な形。ケは、動詞＋助動詞。

（4）代名詞には、人を指し示す人称代名詞と、事物・場所・方向を指し示す指示代名詞がある。

（5）①は状態の副詞、②は陳述（呼応）の副詞、③は程度の副詞である。

（6）①「それ」は指示代名詞、②「平和な」は形容動詞の連体形なので、どちらも連体詞と誤らないように注意したい。

【4】（1）付属語とは、それだけでは文節を作ることができず、いつも自立語の後について文節を作る単語のこと。付属語の中で、活用する単語が助動詞、活用しない単語が助詞である。

今回助動詞として指摘すべき語の基本形を示しておく。「れ」↓「れる」、「た」↓「た」、「ように」↓「ようだ」、「られ」↓「られる」、「た」↓「た」である。

（2）「ない」の識別問題は重要。助動詞の「な

い」と紛らわしいものは、打ち消しの意味をもつ形容詞の「ない」、および「もつたいない」のように形容詞の中に「ない」を含むものである。①と③は形容詞の「ない」、⑤は形容詞「なさけない」の一部である。